静勝寺報

第42新年号
令和6年
1月1日発行
発行 静勝寺
編集発行人
高﨑忠道

年始にあたり、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。コロナ感染症は第5類に移行し、少しずつ以前の風景に戻りつつありますが、インフルエンザも含めまだまだ流行しているようです。

そして何より、ウクライナ、パレスチナガザの戦闘は終焉がみえず、毎日罪のない多くの一般人の命が奪われています。一刻も早い終結、せめて即時の停戦を願います。私たちには祈ることしかできません。

住民はもちろん、兵士もその家族も一刻も早い終戦、停戦を望んでいるはずです。互いの政権も経済的損害を考えれば、終戦を望んでいることでしょう(ただし相手に勝利して)。しかし、我々では計り知れない長い歴史の民族、宗教の違いによる怨讐の積み重ね、また周辺の国々、大国の思惑がからみ、停戦に至らないのでしょう。そして互いに、非難の応酬、戦争勃発の理由、停戦に至らない理由、停戦を破る理由等全て相手のせいにしています。自分たちこそ正義だとし、相手を非難し、自らの暴力の正当性を主張します。でも、結局被害を受け、犠牲となるのは罪のない人々、とくに、女性や子供たちです。また動植物も犠牲となり、大地、環境が破壊されていきます。

日本総研の寺島実郎氏は、「戦争というのは、相手をさげすみ、人を殺しても平気だという心理があるから起きる。ロシア人もユダヤ人も自分たちは神より選ばれし民であるという意識、そして相手を見下す空気がある。」と述べています。「人種差別、人を人と思わない意識から戦争は生まれる」と。だからこそ平気で人を殺せるのでしょう。これは、どの戦争においても同じことが言えます。日本も過去の戦争において、アジアの国々を見下していたようです。

現在、様々な社会問題や事件の根底には、差別意識、相手を見下す思い、態度が根底にあるのではないでしょうか。SNSによるバッシング、いじめ、性差別、ジェンダー問題、パワハラなど〇〇ハラスメント、そして派閥裏金問題等の「政治と金」の問題も有権者をないがしろにしています。

お釈迦様は、「慈悲」をお説きになりました。「慈悲」の「悲」は「カルナ」といって原語で「うめき」を意味し、苦しさのあまり出るうめき声、他者のそのうめき声、苦悩を自分のことのように感じ哀れむことです。一方の「慈」は「マイトリー」といって原語では「友情・友誼」を表します。お釈迦様は、他者の苦しみ、悩みを自分のことのように感じ、そして友として接し悩み苦しみを分かちあうことで、その苦しみ悩みを軽減しました。お釈迦様は、お弟子さんにも常に「友よ」と語りかけ、弟子との間に上下の関係はなく平等でした。お釈迦様当時のインドは、戦争も多く差別が当たり前の時代でした。そんな時代にお釈迦様は「平等」を説かれ、誰とでも「対等」に接しなさいました。それが、戦争をなくし、世の人々の苦悩を救い、何より各自がより楽に過ごせるようになる方法だからと気づかれたからです。

しかし、未だに戦争も差別もなくなりません。人間は、何事も勝手に人と比べて優劣をつけたがります。自分のほうが優れていると、人を見下し、思い上がり、人を傷つけ、逆に劣っていると、落ち込み、自分を卑下し、卑屈になっています。どちらも道元禅師は、「慢心」であると指摘なさいました。さらには比べること自体が「慢心」であると。誰しもが、優位であろうとして苦しみ、劣位であればまた苦しみ、自他共に傷つけあっています。比べたりしなければ、楽に過ごせるのにどうしても比べて、苦しみの原因を作っているのです。なかなか「平等」「対等」ではいられないのです。ではどうしたらいいのでしょうか。

もし、慢心が起こった時、あるいは過ちを起こした時は、「懺悔」することです。「懺悔」とは、今までなしてしまった悪い行いを自覚し、反省し、悔い改め、神仏の前で告白することです。『修証義』の第2章は「懺悔滅罪」といいます。「懺悔をすれば重き罪は軽くなり、さらに罪は滅し心が清浄になる。」と。もちろん「懺悔」さえすれば、罪が許され軽くなり罰せられない、という意味ではありません。放った言葉は引っ込めることはできませんし、決して悪い行為が消える訳ではありません。罪は償わなければなりません。しかし、「懺悔」も反省しないと、次の悪い行為につながります。悪い行為をすれば、自分を守るために言い訳をし、嘘をつき、人のせいにし、そのことで人を傷つけます。嘘も、人をだますのも悪い行為をするのも何度か繰り返すと当たり前になっていきます。人を陥れることを平気でできるようになってしまうのです。

私自身はどうかと省みれば、自分のほうが正しいと思い込み、意見を押し付け、又勝手に相手に期待をかけすぎ、そして自分の意の通りにはならないと、悶々とし、イライラしていました。根底には自分のほうが優位だ、自分のほうが正しいという思い、対等ではない意識があったのは確かです。そのことに気づき、「懺悔」するとすごく楽になりました。

人それぞれ違いがあるのは当然のこと、それは認め、受け入れる。でもそれに優劣をつけることはやめましょう。そして、慢心がおきたり、悪い行為をなした時、「懺悔」することが大切です。「懺悔」は心のそうじです。自分の心を軽くし、元の清浄な心に戻るのです。

人より優位に立つことでは、心の安寧にはつながりません。平等である気持ち、他者を敬う気持ちをもって対等に接していくことが心の安寧につながり、よりよく生きることにつながります。この気持ちが広がれば、平和な世の中につながるはずです。

そして、いやなことがあっても、苦しい時も、くよくよ下を向かず、姿勢を正し、呼吸を整えて前を向いていきましょう。

エレファントカシマシ撮影

先日、「エレファントカシマシ」のミュージックビデオの撮影がありました。ご本人たちは、肖像権上の問題でご覧いただけませんので、エレファントカシマシ“NO MORE CRY”のミュージックビデオをご覧ください。私のインスタもいつもの 10 倍”👍いいね”を頂きました。エレカシ推しの皆さんも大勢いらっしゃるようになりました。

グリーフケアと落語

10 月 1 日に下町グリーフ響和国主催で、立川談慶師匠をお迎えし、「落語とグリーフケアの会」が行われました。師匠の人情噺に大いに笑い、涙し、参加者皆様の話を伺い、グリーフケアの重要性を認識しました。また落語の楽しさも再認識しました。今年も開催予定です。

右写真、左から談慶師匠、代表の本郷由美子氏、住職

左写真、「人情八百屋」を演じる立川談慶師匠

静勝寺点描

ハチの巣見つかる

墓地のカロートの中に日本ミツバチが巣を作っていました（2か所）。巣箱を作って移動してもらいましたが、別のお墓にまた巣を作り戻ってしまいました。そこでまた移動しましたが、結局いなくなってしまいました。美味しい蜂蜜をお土産においていってくれました。

8 月 19 日赤羽文化センター主催の子供坐禅会が行われました。また今年も西が丘小“えがおの秘密探検隊”の隊員が来山しました。

道灌まつり

7 月 26 日、4 年ぶりに「道灌まつり」を開催。初めて静勝寺駐車場を会場にして行われ、大勢で賑わいました。以前の会場より狭いこともあり何を買うにも大行列、暑い中、参加者、町会、ボランティアの学生さんもご苦労様でした。

ピアノ発表会

ピアノ教室の発表会を久々に開催しました。生徒たちは、日ごろの成果を発揮し、また、ゲストに有子さんをお迎えし、素晴らしいバイオリン演奏を披露していただき盛り上がりました。

長老きゅうが仏さまのもとに戻りました。21 年 5 ヶ月。長い間私たちを癒してくれました。ありがとう。

左は 21 歳の誕生日の写真

令和６年	年回表
一周忌	令和５年
三回忌	令和４年
七回忌	平成３０年
十三回忌	平成２４年
十七回忌	平成２０年
廿三回忌	平成１４年
廿七回忌	平成１０年
卅三回忌	平成４年
五十回忌	昭和５０年

編集後記　コロナ前に戻ったようで、各地に出る機会も多くなりました。昨秋は永平寺、岡山吉祥寺晋山、徳島城満寺、香川報四恩精舎、茨城浄土真宗専修寺、函館高龍寺といろいろ巡りました。　忠道

静勝寺ホームページ

http://joshoji1486.sakura.ne.jp/

坐禅会、写経会、うたの会の予定はこちらでご確認ください

インスタグラム@jozanchudo

四季折々の境内の写真を載せています。

アンコールワットの旅　参加者募集中

3月4～9日　詳しくは別紙参照

今後の予定

○元旦法要　1月1日（月）朝6時～

○亀ヶ池弁才天節分会　2月3日（土）午後3時～

豆まき（予定）

○春季彼岸会法要　3月20日（水・中日）

午前11時　お話と法要（予定）

○坐禅会　毎月第一土曜　午後2時半～4時半

定員45名（予約制）

○写経会　毎月第二土曜　午後2時半～4時半

定員25名（予約制）

○うたの会　毎月第四土曜午後2時半～4時

定員25名（予約制）1月は28日

○日曜坐禅会、朝の会

毎週日曜（第5週は休み）朝6時～　坐禅会　6時50分～7時30分　朝の会（読経と話）両会とも定員45名（予約制）

○ピアノ教室　随時生徒募集

予定が変更する場合があります。ホームページでの確認、あるいは電話でお問い合わせください。

お問い合わせ、お申し込みは
０３－３９００―４４５５